研究業績

青年の性に関する意識調査について

富山県公衆衛生課　奥村高子
盛永宏子

はじめに

次代をになうすこやかな子どもを生み育てることを目標として、各種の対策を実施しているが、とくに婚前者の教育のためには、対象とする青年が性に関してどのような意識をもっているかについて、実態を把握しなければ、教える側の一方的な指導に終り、相手の立場にたった実のある教育を期待することができない。

以上の観点から、今回県内の青年団員を対象として青年の性に関する意識調査を実施した。

調査の内容として、性交渉、性知識、性病、人工妊娠中絶等のほかに結婚後の共働き、母乳、母性保健の知識等も加え、婚前教育における全般的な指導内容の充実をはかろうとしたものである。

調査の概要

1．目的

青年の性に関する意識についてその実態を把握し、婚前教育の内容方法等の充実をはかり、もってすこやかな子どもを生み育てる対策の向上を期する。

2．実施機関及び協力機関

富山県が富山県青年団協議会の協力を得て調査を実施した。

3．調査対象及び調査方法

富山県内の各地域青年団に加入している青年 1,000名を無作意に抽出して、調査票を配付し、自記法により記入を求め回収した。

4．調査期間

昭和50年5月～6月

4．調査内容

別紙調査票による。

回答者の状況

1．男女別、市町村別状況

表1　男女別状況

区分＼性別	男	女	計
実数	466	298	764
率 %	61.0	39.0	100.0

表2　市町村別状況

市町村名	男	女	計	市町村名	男	女	計
富山市	21	11	32	大門町	12	7	19
黒部市	33	23	56	下村	3	5	8
宇奈月町	2	9	11	大島町	6	3	9
入善町	24	24	48	砺波市	15	21	36
朝日町	11	9	20	城端町	15	10	25
滑川市	21	12	33	庄川町	13	5	18
舟橋村	2	—	2	井波町	25	11	36
上市町	8	8	16	福野町	25	3	28
立山町	17	10	27	福光町	27	22	49
魚津市	5	4	9	小矢部市	52	18	70
婦中町	10	8	18	福岡町	11	16	27
山田村	15	5	20	高岡市	37	18	55
八尾町	10	3	13	氷見市	14	3	17
新湊市	20	18	38	計	466	298	764
小杉町	12	12	24				

回答者は 764名で男性 466名で61.0%、女性は 298名で39.0%で男女の比率は6：4の割合である。この数は、富山県青年団協議会加入人員（昭50）10.045人に対し 7.6%、男

性 6,027人に対し 7.7%、女性は 4,018人の 7.4%にあたる。

市町村別では85市町村のうち28市町村で実施し、未調査市町村は、大沢野町、大山町、細入村、井口村、利賀村、上平村、平村である。

2. 年令別状況

表3 年令別状況

性別	区分＼年令別	19才以上	20～22才	23～25才	26才以上	不明	計
男	実数	40	189	193	23	21	466
	率%	8.6	40.6	41.4	4.9	4.5	100.0
女	実数	84	191	12	1	10	298
	率%	28.2	64.1	4.0	0.3	3.4	100.0
計	実数	124	380	205	24	31	764
	率%	16.2	49.8	26.8	3.1	4.1	100.0

20～22才が49.8%で最も多く、次が23～25才の26.8%、19才以下が16.2%の順位である。男女別では、男性では20～22才が40.6%で、23～25才の41.4%と大差はないが、女性は20～22才が64.1%、23～25才ではわずか 4.0%である。

一方19才以上では男性が 8.6%であるが、女性は28.1%を占めている。

3. 職業別状況

男女別の職業をみると男では勤労職員（会社員、公務員、団体職員、事務員等）が74.3%を占め、次が販売従事者5.8、技能工、生産工程作業者 5.6%、農林漁業 2.8%となっている。

女では勤労職員74.3%で、男と大差はないが、次が学生 5.0%、家事従事者 4.7%、販売従事者 3.0%となっている。

4. 地域別状況

表5 地域別状況

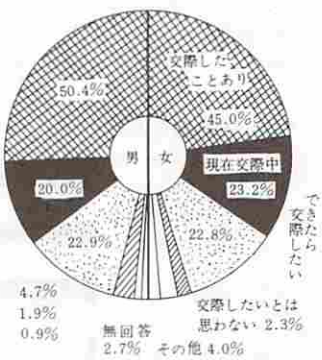
区分＼区分	町部	村部	計
実数	61	703	764
率%	8.0	92.0	100.0

青年団に加入している市町村の校下名から推して、町部と村部に分類してみたところ、村部は92.0%と大多数を占め、町部はわずか 8.0%であった。

調査結果

1. 男女交際について

図1 男女交際



現代における男女交際は、戦前と比較して大きく変わり、この変化は青年の性意識に強く影響していると言われている。

そこで、まず「あなたは特定の異性と親しく交際したことがありますか」と質問した。

「特定の異性と親しく交際」を「していた」「している」者は、全体の69.5%を占める。

交際をしていない者でも「できたら交際したい」と思っている者が22.4%あり、青年の90%以上が、男女交際を経験または期待しており、男女別でもとくに大差はない。

日本性教育協会が青少年の性行動について全国12都市で調査した結果によると、異性接近欲（異性に近すき親しくなりたいという欲求）について「ある」と答えた者は男性92.7%、女性は90.3%であった。

表4 職業別状況

性別＼職業別	勤労職員		農林漁業		技能工・生産工程作業者		販売従事者		サービス業		専門的技術的職業		家事従事者		学生		未記入		計	
	実数	率%	実数	率%	実数	率%	実数	率%	実数	率%	実数	率%	実数	率%	実数	率%	実数	率%	実数	率%
男	347	74.4	13	2.8	26	5.6	27	5.8	5	1.1	4	0.9	—	—	1	0.2	43	9.2	466	100.0
女	221	74.3	—	—	2	0.7	9	3.0	1	0.3	1	0.3	14	4.7	15	5.0	35	11.7	298	100.0
計	568	74.3	13	1.7	28	3.7	36	4.7	6	0.8	5	0.7	14	1.8	16	2.1	78	10.2	764	100.0

図2　結婚前の性関係（一般論）

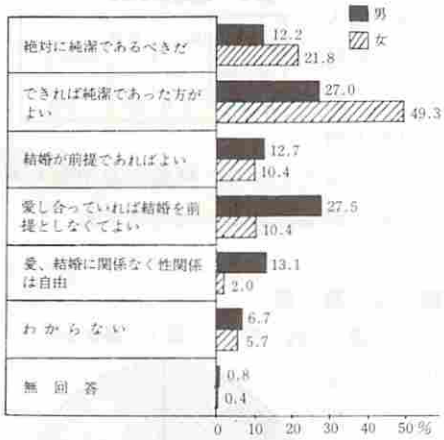
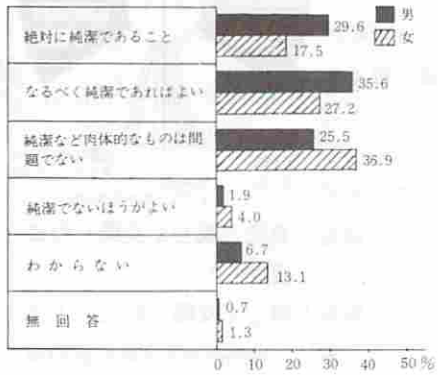


図3　結婚前の性関係（自分の相手の場合）



2.　結婚前の性関係について

結婚前の性関係については一般論としての考え方と、実際に自分の相手として考えた場合とでは相違することが予想される。

そこでこの問題について、一般論と自分の場合とに分けて質問した。

1）一般論の場合

「絶対に純潔」「できれば純潔」を加えると、全体の51.7%が純潔を期待している。これを男女別にみると、男性39.2%、女性71.1%で、女性は男性の 1.8倍である。

一方「愛さえあれば」「愛、結婚に無関係」のいわゆる自由であるという考え方は、男性は40.6%、女性は12.4%で、この場合、男性の方が多く、女性の 3.3倍である。

また、「結婚が前提であれば」は意外に少なく男性12.7%、女性10.4%であった。

総理府青少年対策本部で発表された「青少年の性に関する意識調査（昭46）（以下総理府の調査と略記）によると「性交は自由に行なわれてよいと思うか」の問に対し、「よい」と答えたものは、男性40.8%、女性18.7%で、本調査と比較すると男性はほぼ同じである。

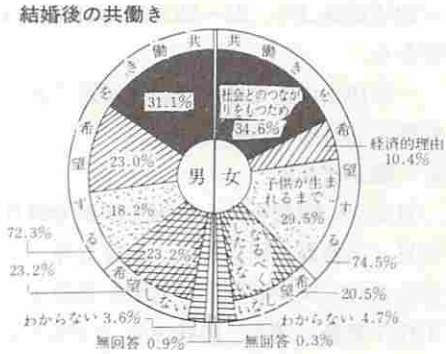
2）自分の結婚相手の場合

純潔を期待するものは男性65.2%、女性44.7%で、一般論の場合と比較して男性が多くなる。また「肉体的問題にこだわらない」とするものは、男性25.5%、女性36.9%で、女性が多く、一般論の場合と反対の傾向を示している。

3.　結婚後の共働きについて

最近共働き世帯が増加し、勤労婦人と母性の健康管理や、育児に及ぼす影響等、社会的問題となっている。そこで青年は、結婚後の共働きについてどのような意識をもっているか質問した。

図4　結婚後の共働き



男性も女性も80%近くは結婚前から、結婚しても共働きでいきたいと考えている。その理由として男性では31.5%、女性では34.6%のものが「社会とのつながりをもちたいため」と答えている。「経済的理由」をあげているものは、男性23.0%が女性10.4%より多く、また「子どもが生まれるまで」と育児に専念したい希望は女性29.5%が、男性18.2%より多い。

ところで、実際の共働きの状況についてみると、本県で行なった妊産婦医療実態調査（昭47. 11. 15）によれば、就業者は50.3%であり、また全国社会福祉協議会が、婦人民生委

員により実施した「妊産婦の保健と生活実態調査」（昭47）によれば、本県では41.7%の妊産婦が就業していた。

4．母乳育児について

図5　乳児栄養の方法

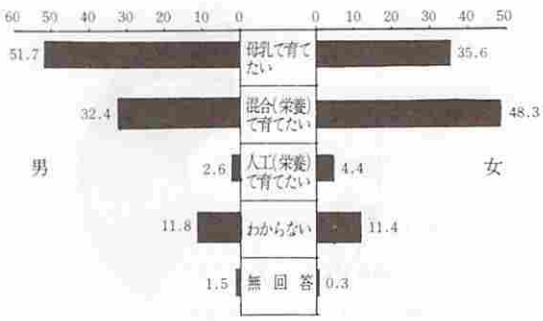


図6　母乳で育てたい理由

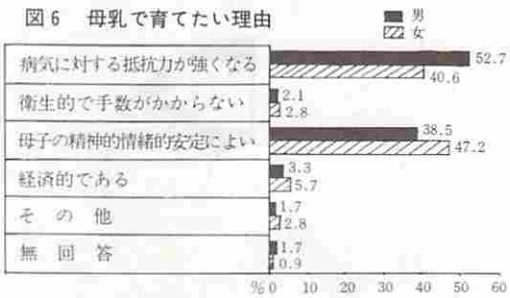
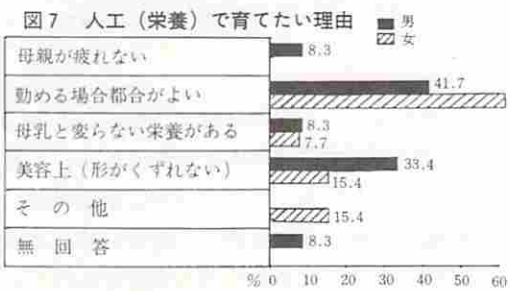


図7　人工（栄養）で育てたい理由



最近、母乳育児が減少したこともあって、母乳栄養の利点が強調され、母乳推奨運動をすすめているが、青年は、母乳についてどんな考えをもっているか質問した。

「母乳で育てたい」と考えているものが45.4%「混合栄養」が38.6%、「人工栄養」がわずか 3.3%であった。男女別にみると、男性は母乳51.7%、混合32.4%と母乳が多く、女性は反対に混合が48.3%、母乳35.6%で、混合が多くなっている。

「母乳育児」の理由については、身体面（病気に対する抵抗力）と精神面（情緒的安定）のとらえ方をみると、男性はどちらかといえば身体面が強く、女性は大体、精神、身体ほぼ同数である。また「経済的である」「衛生的で手数がかからない」等も、母乳の利点であるが「最も重要なもの１つだけ」と質問したため、この答えは男女とも少数であった。

「人工栄養」の理由として、勤務上の理由をあげているものが54.2%あり、美容上の理由では、男性33.4%、女性15.4%であった。

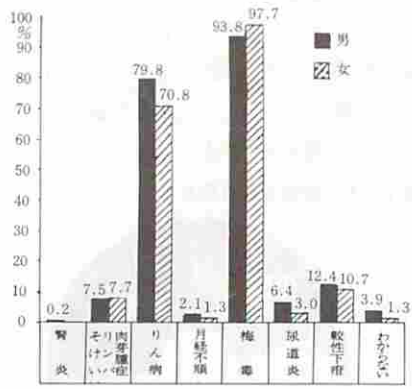
「混合栄養」を希望するもののうち75%は共働きしたいと答えているので、やはり、勤務がその主な理由であろう。

乳児栄養の現状として、富山県では、昭和49年、１ヵ月児においては、母乳24.9%、混合28.6%、人工46.5%、３ヵ月児では、母乳15.6%、混合19.6%、人工64.8%である。

5．性病の知識について

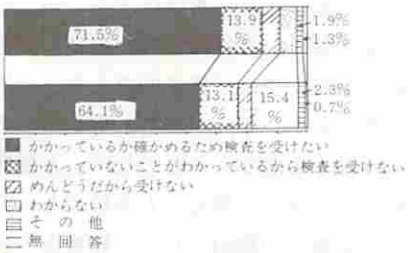
結婚を間近に控えている青年たちにとって性病予防は健康な家庭を築くうえで、重要なことである。そこで性病に関する知識について質問した。

図8　性病の知識



梅毒が性病であることは、ほとんどのものが知っている。しかし淋病では、やや少なくなり、軟性下疳や、そけいリンパ肉芽腫症を性病と知っているものは、ごくわずかとなる。また尿道炎や、月経不順も性病であると思っているものが 6.9%（53人）いた。

図9　結婚前の梅毒血液検査



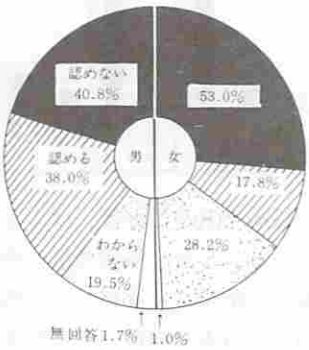
「結婚しようとする者は、梅毒の血液検査を受けることになっていますが、あなたはどうすると思いますか」と質問したところ、全体の70%近くは「り患しているか確かめるために検査を受けたい」と答えている。「検査を受けない」と答えているものは18.7%、その内訳として「り患していないから」が13.6%「めんどう」が 5.1%である。

ところで、昭和49年に実際に結婚前の性病予防法による血液検査を受けたものは 1,134人で、婚姻者 8,653組に対し 6.6%で、この率は「検査を受けたい」と答えた率の約10分の1にすぎない。

6.　人工妊娠中絶について

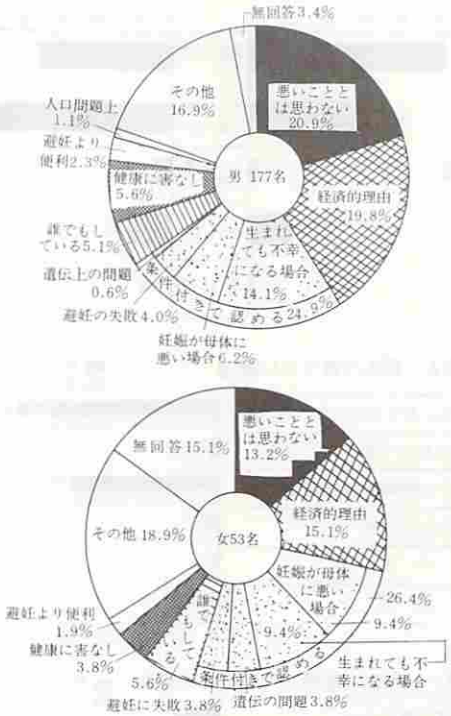
近年、未婚者の人工妊娠中絶が増加している。人工妊娠中絶そのものの良し悪しについての青年のとらえ方や、また、母体の健康に及ぼす影響等の理解度を知り、指導上の参考にする必要がある。このような観点から人工妊娠中絶に関する質問をした。

図10　人工妊娠中絶を認めるか



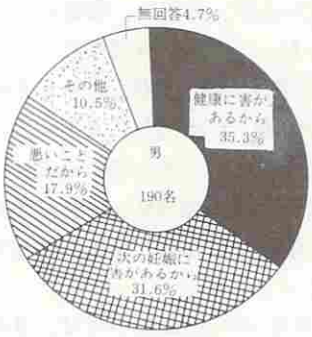
中絶をみとめるものは30.1%、みとめないもの45.6%であるが、男女別では、みとめるもの、女性17.8%に比し、男性は38.0%の高率を示している。また、わからないと答えたものが、とくに女性に28.2%いることに注目される。

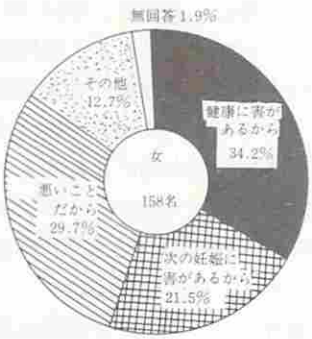
図11　人工妊娠中絶を認める理由



中絶をみとめる理由として、「悪いこととは思わない」「経済的理由」をあげているものが多い。また、「生まれても不幸になる場合」「妊娠が母体に悪い場合」「遺伝」等のように条件つきでみとめるものも多数を占めている。

図12　人工妊娠中絶を認めない理由



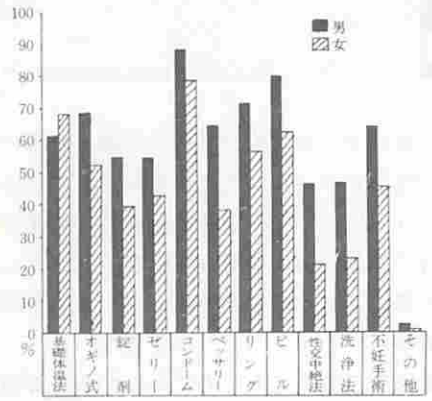


中絶をみとめない理由として、「中絶が母体の健康」や、「次の妊娠に害がある」を理由にあげているものは、男性66.9%、女性55.7%あり、悪いことだからと答えたものは、男性17.9%、女性29.7%である。その他の理由として「生命の尊重」「人道的に反する」「親は責任をもって育てるべき」等がある。

7. 避妊の知識について

母体の健康、家族の幸福を考える家族計画のための基礎知識として、青年は避妊に関する正しい知識をもつことが必要である。そこで、避妊について、又は避妊のどんな方法について知っているか（いくつでも）という質問をした。

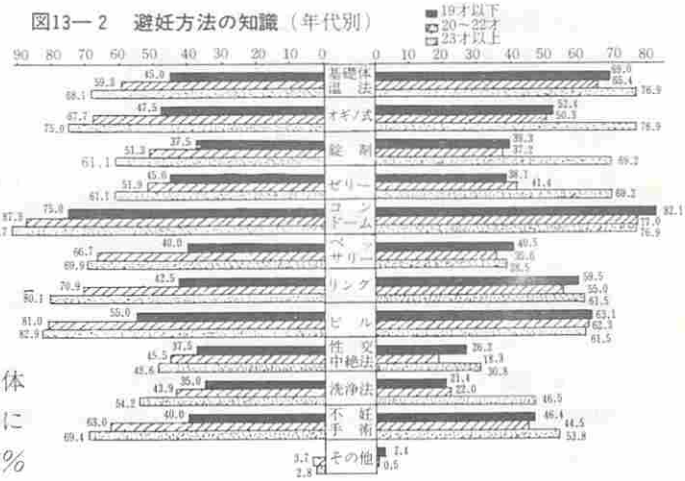
図13 避妊の知識



避妊ということについては、男性では92.3%、女性では87.6%のものが知っていると答えている。

知っている方法で最も多いのはコンドーム84.8%、次いでピル73.2%、リング65.8%、基礎体温63.9%、オギノ式62.2%の順になる。

図13—2 避妊方法の知識（年代別）



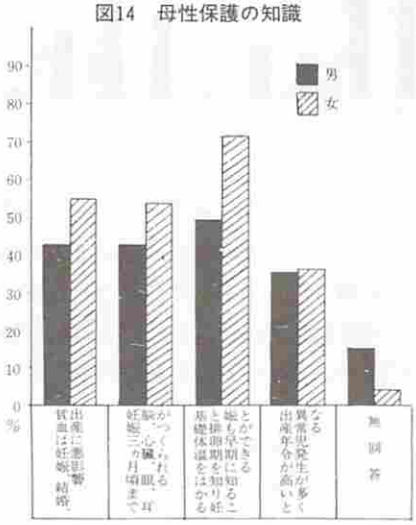
男女別では、基礎体温法を除いて各方法ともに知っていると答えたものは、男性に比べ女性が低率で、とくにオギノ式の場合も知っている女性は約半数にすぎない。

年代別にみると、女性では、オギノ式、錠剤、ゼリー、洗浄法は23才以上の年代で急に率が上昇しているが、他は年代別のうごきがみとめられない。しかし、男性では、いずれも、年代とともに漸増する傾向がみられる。

厚生省が、昭和47年に行なった第6次出産力調査（夫婦1万組）によると、我が国の夫婦の3分の2は、受胎調節の経験をもっているが、このうち36%が平均2回失敗していると報告され、実際面の困難性が指摘されている。

8. 母子保健の知識

図14 母性保護の知識



先天異常等を予防し、丈夫な子どもを生むためには、妊娠してからではおそく、結婚前から知識をもつことが必要である。そこで結婚期においてもとくに重要と思われるいくつかの点について質問した。

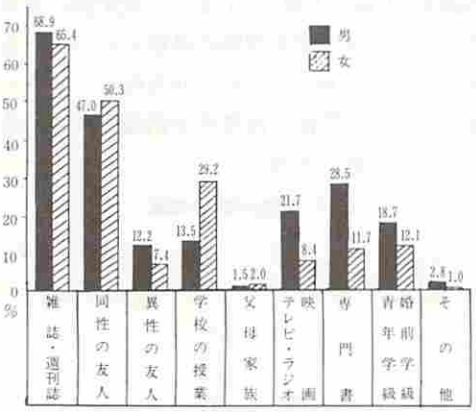
母性保健に関する知識は、全般に、女性は男性より多くもっている。しかし妊娠初期における胎児の器管形成や貧血の母体や胎児に及ぼす影響等について知っていると答えたものは約半数であり、また、高年出産ほど異常児発生率の高いことについて知っている女性は36.3%にすぎない。

避妊の方法についての質問で、基礎体温を知っていると答えたものと、基礎体温によって妊娠を早期に知ることができるという知識を比較すると、女性は68.1%から71.2%と差はないが、男性は61.2%から49.4%へと、やや減少する。

9. 青年は性に関する知識をどこから得ているか

性に関する知識が誤っていないか、そして

図15 性知識の情報源



内容、方法の期待度を知ることにより今後の方向が指摘されるであろう。そこでまず、性知識の情報源を調べ、次にその知識の正誤、さらに内容、方法の希望の順序で質問することとした。

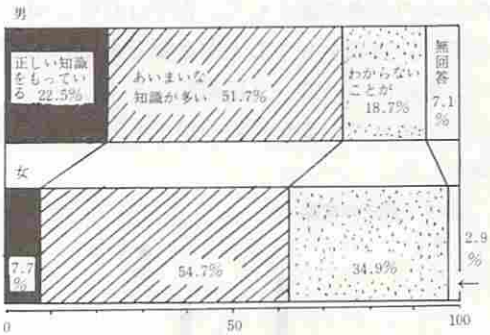
1）性知識の情報源

性に関する知識をどこから得たか、2つ選ばせたところ「雑誌、週刊誌」が67.5%、次は「同性の友人」48.3%である。「専門書」は22.0%「学校の授業」19.6%「青年学級、婚前学級」16.1%であり「父母、家族」は、わずか 1.7%である。男女別に比較すると男性に多いのは「専門書」「テレビ、ラジオ、映画」「青年学級、婚前学級」であり、「学校の授業」「同性の友人」は女性に多い。

総理府の調査においても、性知識は雑誌、週刊誌（避妊、中絶61.9%、性交62.1%）同性の友人（避妊、中絶45.8%、性交54.5%）から主として得ており、また、富山県教育センターが、昭和50年1月に実施した、高校生の性意識調査（以下高校生調査と略記）においても、雑誌、週刊誌（80%）、友人、先輩（74%）が多くを占めている。

2）性知識は正しいか

図16 性知識の正確性



「あいまいな知識が多い」と答えたものが52.9%「わからないことが多い」とするものが25.0%で、つまり全体の約80%の青年が、自分の知識に自信を持っていない。ことに女性の場合「正しい知識を持っている」と言えるものが、わずか 7.7%にすぎない。

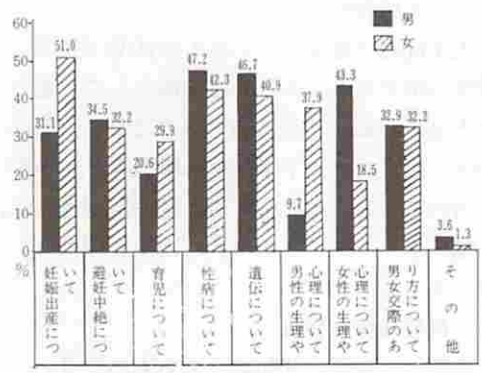
総理府の調査でみても、「あなたの性知識は、どの程度だと思いますか」の問に対し、「じゅうぶんである」14.3%「ふじゅうぶんである」69.1%であり、ほぼ同様の傾向を示している。

また、高校生の調査では、正しい知識をもっていると答えたものは、男性33%、女性21

%で、青年より多くなっている。

3）知りたい性知識の内容

図17　知りたい性知識の内容



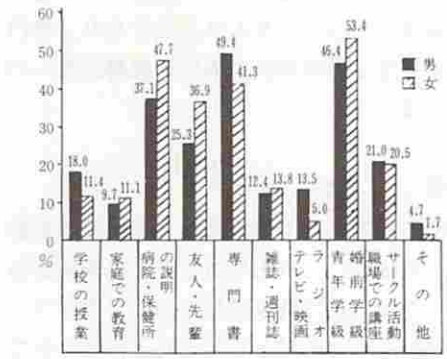
青年の知りたい知識としてとりあげたものは、性病45.3%、遺伝44.4%、妊娠、出産38.9%、避妊、中絶は33.6%の順である。男女別にみると、女性の生理、心理、性病、遺伝は男性に多く、男性の生理、心理、妊娠、出産育児が女性に多い。　産、　生理、心

総理府の調査では、妊娠、出産、性病、異性の感情の動きの順で、やはり妊娠、出産は女性に多い。

高校生の調査では、異性の心理、男女交際のしかた、性病の順で、妊娠、出産、育児等の知識を知りたいものは、男女とも低率である。

4）性知識を得る方法

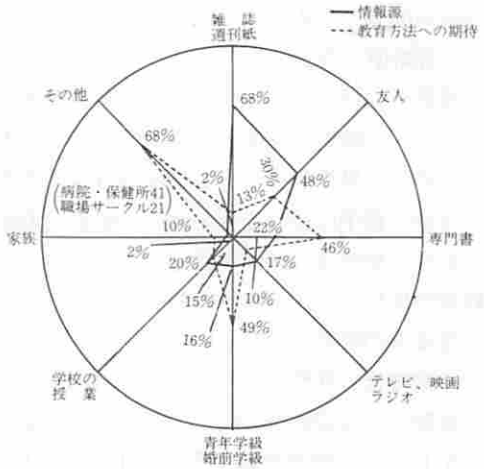
図18　性知識を得るためによいと思う方法
（教育方法への期待）



性知識を得るための方法として最も多く期待しているのは、青年学級、婚前学級49.1%、次が専門書46.2%、病院、保健所41.2%の順で、男女別では、青年、婚前学級、病院、保健所、友人、先輩等は女性に多く、男性に多いのは、専門書、学校の授業、テレビ、映画、ラジオ等である。

この教育方法への期待度を前に質問した性知識の情報源とを比較すると、図19のようになる。

図19　性知識の情報源と教育方法への期待



すなわち、情報源では多数を占めている雑誌、週刊誌、友人は、期待では減少し、青年学級、婚前学級、専門書、病院、保健所等より確実な知識、情報源への期待が大きくなっている。

一方、学校の授業、家族からは情報源も期待でも少ない。

総理府の調査では、雑誌、週刊誌の情報源と期待との差は、本調査とほぼ同じであるが、学校の授業への期待は、他を引き離して多くなっている。（百分率で40.4%）

高校生の調査においても、雑誌、週刊誌、友人、先輩よりも、学校の授業、専門書に期待している。

なお、これらと同時に、親に対して行なわれた、性に関する意識調査において、教育方法の期待についてみると「学校で」の希望が総理府の調査では36.3%、高校生の調査では65%で、いずれも第1位となっている。

ま　と　め

現代の青年の性に関する意識について、婚前教育等の資料とするため、富山県が富山県青年団協議会の協力を得て地域青年団に加入している青年 807名について調査し、次のような結果を得た。

1.　男女交際の状況

男性の70.4%、女性の68.2%は交際中及び交際経験をもっている。交際期待を含めると全体の90%となる。

2.　結婚前の性交渉

純潔を期待するものは男性39.2%、女性では71.1%、婚前の性関係は自由であると答えたものは、男性40.6%、女性は12.4%である。

自分の相手に望む場合では、一般論と差異があり、男性は、純潔を肯定するものが、一般論では少ないが、自分の相手では多くなり、女性はその反対の傾向を示す。

3.　結婚後の共働き

共働きの希望者は80%で、社会とのつながりをもちたい理由が最も多い。男女別では、経済的理由をあげているのは、男性に多く、子どもが生まれるまでと考えているものは、女性に多い。

4.　母乳育児

全体の45.4%は、母乳育児を望んでおり、母乳の利点を男性では身体面を、女性は精神面を第1にとらえている。

また混合栄養の希望は女性では48.3%を占め、勤務が主な理由である。

5.　性病の知識

性病の理解度は、梅毒は高いが、淋病ではやや低下し、その他の性病ではごく少数となる。また、梅毒の血液検査については70%は受けたい希望でいる。しかし、実行するものは、少数になるようである。

6.　避妊に関する知識

避妊については、90%のものは知っていると答えており、その方法では、①コンドーム、②ピル、③リング、④基礎体温法、⑤オギノ式の順となる。

全般的に男性は女性より知識が多い。年代別では、19才以下の男性は知識が少ない。

7.　人工妊娠中絶

人工妊娠中絶をみとめるものは30.1%で、男性の率が高い。みとめる理由として「悪いことと思わぬ」「経済的」等のほかに、条件つき（生まれても不幸になる場合等）が多くを占める。みとめないものは45.6%で理由は、「健康上」「悪いことだ」「次回妊娠の害」等である。

8.　母性保健の知識

女性は、男性より知識のあるものが多い。しかし、女性でも「貧血の影響」「妊娠初期の器管形成」は約54%「高年出産の害」では36%にすぎない。

9.　性に関する知識

性知識の情報源では、68%が「雑誌、週刊誌」からで、次が同性の友人48%である。「専門書」「青年、婚前学級」「学校の授業」等は16～22%と低く「父母、家族」は、ごく少数である。

これらの知識の正誤については、自信のないものは約80%で、とくに女性は、その率が高い。

知りたい知識の内容としては、性病、遺伝、妊娠、出産、避妊、中絶等であり、女性では、妊娠、出産の知識を希望するものが多い。

教育方法への期待では、情報源で多くを占めた雑誌、週刊誌、友人は少数となり、専門書、青年及び婚前学級、病院、保健所等への期待が多くなる。

考　　察

婚前の性関係については、とくに愛情を前提とした場合に、自由であるという傾向がみられるが、これは既成の性についてのタブーから解放された結果としてとらえることができよう。しかし、性関係は、妊娠、出産という問題も予想され、精神的にも悪影響を残す

場合も考えられるので、性知識を正しく理解させるとともに、真の愛情とは、責任や知性が伴うものであり、正しいモラルを理解させる人間教育面も重要であろう。

人工妊娠中絶を非とするものは、半数に満たず、とくに「誰でもやっている」「避妊より便利」「悪いこととは思わぬ」等、中絶の悪影響を理解していない面もあるので、中絶の母体に与える弊害、さらに生命創造の尊厳等の理解を高め、安易に中絶に流れてはいけないという認識を広めることが必要である。

避妊に関する知識については、男性に比し、女性が全般的に低いことに注目される。男性にも、女性にも、家族計画の正しい理念のもとに、避妊の実際面の知識について指導すべきであろう。

青年の多くは、結婚後も共働きを希望している。近年勤労婦人が増加したことから、母体の健康管理や、育児に関する制度が設けられてきたが、今後なお、関係方面相互の協力が必要であろう。

母乳が、子どもの心身両面の発育に大きな影響を及ぼすところから、現在母乳栄養を推奨しているが、勤労婦人でも「せめて産後の休暇中は母乳のみで」の普及を図ることが大切である。

心身障害児発生予防のために強調されている妊娠初期における器管形成の重要性や、貧血の母体や胎児に及ぼす影響等についての知識をもつものが少ないことからも、婚前教育の必要性を示していると言えよう。

青年の性に関する知識の多くは、週刊誌や友人から得ているが、この知識には自信がなく、正しい知識を専門家から系統的に学ぶことを望んでいる。この傾向は、他の調査でも同様であり、家庭、学校、一般社会へと一貫した性教育の必要性について指定されている。

本県においては、母子保健の向上に資する目的で、母子保健対策協議会を設置し、関係者から広く意見をきいて、事業推進をはかっているが、本調査も、内容については、協議会において、検討し、調査結果も中間報告をしたところである。今後なお、関係機関、とくに学校教育、社会教育、企業体等の連けいを深めるとともに、各地域においても、本調査の結果を教育内容充実のために活用されるよう、はかっていきたい。

終りに、今回の調査にあたり、趣旨に賛同され、全面的に御協力をいただいた富山県青年団協議会に対し厚くお礼を申し上げる。

文　　献

1）青少年の性行動：日本性教育協会
2）日本の純潔教育：間宮武
3）母性保健：株路新、山下章
4）母子保健家族計画年報（49年度）：日本家族計画協会
5）働く女性の妊娠分娩育児：日本母子衛生助成会
6）青少年の性に関する意識調査：総理府青少年対策本部
7）青年の性意識に関する調査報告書：山形保健所
8）農村高校生の性意識について：北陸公衆衛生学会誌第1号、西正美、蓑輪直澄
9）20才の余暇と性と金：十日町地域広域市町村圏協議会
10）婚前教育指導者セミナー：群馬県母性衛生学会
11）中高校生の性意識に関する調査：富山県教育センター
12）妊産婦医療実態調査：富山県厚生部
13）妊産婦の保健と生活実態調査：全国社会福祉協議会